善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善　正　寺
TEL:0593-31-1670
FAX:0593-32-0733

掲示板法話

「当たり前」が「お蔭さま」に変われば いのちは輝きを放つ

人生を四季に置き換えて例えると、春が青年、夏が壮年、秋は老年、冬は晩年と言えるかもしれません。老境（？）に差し掛かった私はいつ突然訪れるかもしれぬ「晩年」を前に、老いの秋を実りの秋としたいものだと思うこと、しきりです。

脳科学の中村克樹先生（京大霊長類研究所教授）が「多くの生物は繁殖を終えると死ぬが、人とシャチ（特にメス）は例外的に長生きする。限られた子孫を育てる手伝いをするために進化してきた」と教えて頂きました（毎日新聞、９月５日朝刊）。少しでも長く健康長寿でいたいというのは偽りのない個人的願望ですが、それだけでは申し訳ない。相対的に若年人口が減り、高齢者人口が増える時代に、これからの時代を担う若い人たちのために我々高齢者は、ちょっとだけでもお手伝いをしましょう。お役に立つ喜びが人生を輝かせるという訳です。

去る九月半ば、東日本豪雨で大きな被害が出ました。一生働いて建てた住まいが洪水に飲まれて根こそぎ流されてゆく。ニュース画像は、「砂上の楼閣」さながらの姿を見せつけました。心からのお悔やみと復旧支援の志を寄せたいと思いますが、それと同時にいつか見た川柳を思い出しました。

「他人事が我が事となる浮世かな」。

親鸞聖人が常に言われていたという「煩悩具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもってそらごとはごと、まことあることなきに、唯念仏のみぞまことにておはします」（歎異抄・後序）という言葉が胸に迫ります。煩悩にまみれた凡夫が暮らすこの世は、火に追われた家のようにはかない無常の世界であり、空虚な偽りに満ちた空しい世界であり、真実はどこにも見当たらない。念仏申す事だけが真実として存在し、人々の心を支えることができる、という意味です。

真実のかけらもない私たちが苦悩が糧となり、念仏申さずにおれぬ身に仕上げられたならば、すべて報恩感謝の生活に転換される。「当たり前」が「お蔭さま」に転換されるとき、いのちは輝きを放つ。苦難の人生を乗り越えた輝きこそ、子や孫の真の人間教育になるのです。

☆行事ご案内☆

◇門信徒会10月の例会

10月18日(日)夜7時半

① 報恩講のお勤め；練習と語義解説
② 大遠忌法要に向けて；法要修行計画概案

※「第5回善正寺門徒展」10月1日より31日までの1か月間

百五銀行阿倉川支店ロビーで開催、続いて「報恩講」で本堂に展示。子供から大人までの力作。是非ご覧下さい。

◇絵手紙教室　10月13日(火)午前10時　庫裏食堂で

◇キッズサンガ　10／3（土）午後4時よりお経ゲーム。
鐘つきは毎夕５時、年中無休、お友達を誘って来てね

◇三重組コーラス　１０／１（木）西勝寺様で練習、

善正寺ホームページ「**三重　善正寺**」で検索．1年分の寺報閲覧。毎日更新のブログ「**住職と坊守のつれづれ日記**」が大好評。開設7年2か月で18万5千訪問、一日平均100訪問、悩み相談、大歓迎！即返信

◇『一縁会テレホン法話』０５９・３５４・１４５４へ電話

親鸞聖人７５０回大遠忌法要平成２８年５月１５日（日）午後

※お稚児さん大募集！参加費５千円、詳細お申込みは寺まで生涯のよき思い出、仏縁です。お誘い合わせてご参加下さい！

◇新納骨堂：後継者のない方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇「報恩講」のご案内　１１月２日午後１時半、夜７時半（琴演奏）**３日午前１０時**、講師　藤大慶先生（京都府）

《お非時》２日午前１１時より１２時、手作り昼食をどうぞ！

写真アラカルト；ファミリーコンサート

「若いママも子供さんとお寺にご縁を」の願いで若坊守が企画。三重オペラ協会所属歌手、ピアニストと！

手をつないで楽しく

稲葉梨恵さん、星合智美さん

食事の後、じゃんけんゲーム

子供も聞き入りました。

手をつないで散歩の歌

紙芝居に子供も一役

坊守スケッチ　二つの誕生日

私の誕生日に、よくお寺参りをされた方の湯灌の現場に立ち会いました。介護現場の簡易浴槽を使って、自宅で家族全員のお見送りの儀式をされました。その時ハッと気づきました。

「湯灌はお浄土への産湯！今まさに故人がお浄土で仏様となって生まれ変わる瞬間！娑婆世界で苦しむ私達を導いて下さる」と合点しました。

私は還暦を過ぎた頃から、誕生日を迎える度に、年齢の足し算ではなく引き算をするようになりました。あと何年生きられるだろうか？平均寿命までなら２０年、健康寿命ならば１５年。孫が大学生になる頃までかなあと勝手に想像していますが、そこまで生きられる保証は少しもありません。

池田勇諦先生は「死を忘れると生活は浮く。死を怖れると生活は沈む。死を明らかにすると生活は輝く」と言われました。自分の誕生日は『後生の一大事』を再確認する大切な日なのだと納得しました。

永代経に参られた８０代の老夫婦が「今日は４０代で亡くなった息子の命日です。息子がお寺参りの背中を押してくれました」と言われました。

亡き先代住職も「お念仏は親じゃぞよ。親の喚び声じゃぞよ」が口癖でした。お念仏を唱える時、先にお浄土へ旅立たれた方が仏様となり、迷いの世界で苦しむ私達の行く末に灯りを照らして下さいます。

９月２０日小杉町の『追悼法要』が善正寺で勤められました。地域の為に働いて下さった尊い沢山のいのち！その喚び声に静かに耳を傾け、私達の生きる指針としましょう。

ホットニュース

☆初めての『ファミリーコンサート』（９／１２）は、８０名程の参加を得て大盛況のうちに終了しました。子供達は庫裏での《寺ごはん》は初体験！忘れられない思い出。兵庫の寺報愛読者より送られた景品も配られ、参加者は大喜び。歌とピアノの生演奏も素晴らしく、子供から大人まで楽しめるひとときでした。今回は若嫁の初企画に、坊守は寺ごはんで応援。寺に新しい風が吹いたような手応えを感じました。こちらに引っ越して日の浅い母子も気軽に立ち寄って下さいました。今までお寺とは全く無縁だった人とも、ご縁ができて、新たな活力となりました。

◇コンサートでお世話になった稲葉梨恵先生に、来年５月１５日の７５０回忌法要で、稚児が入堂するまでの時間に、仏教讃歌を一緒に歌うリードをして頂きます。お楽しみに！

☆若院夫婦の『育自な毎日』その１２

九月十二日（土）は私の初企画としてファミリーコンサートを催しました。ご来場頂いた皆さん、ありがとうございました。今回のコンサートにお招きした声楽家の稲葉梨恵さんは、私の中学・高校の同級生で、高校時代は共に合唱部で活動していました。伴奏者の星合智美先生は三重県の合唱団では知る人ぞ知る有名なピアニスト。

今ではすっかり音楽から遠ざかっている私ですが、小さい頃から歌うことが好きでした。それは、歌好きの両親の影響。父にはお風呂で昭和歌謡や演歌をよく教えてもらいました。母はママさんコーラスにかつて所属。よく練習にくっついて行きました。

３歳の長男も歌うことが大好き。それはきっと音楽好きのパパチャンの影響かも？最近は大好きなテレビ番組の歌を耳で覚えて一生懸命に歌います。歌詞がわからなくてもそれらしく歌っています。おまけに声が大きいので、大人の会話も聞き取れないほど。

子ども時代に私が歌っていた歌を長男が今同じように歌っているのは不思議な感じです。きっと今だけしか楽しめない経験かもしれません。

コンサートでは子どもたちと一緒に歌うパパやママの姿がありました。どうかおうちでも時々一緒に口ずさんであげて下さい。子供は歌が大好き。喜ぶこと間違いなしです。

カンパありがとう

前田正子様、阿曽香代子様・森基道様、後藤春子様、他匿名様より頂戴。感謝

◇１０月１日から３１日までの１か月間、百五銀行阿倉川支店ロビーで《第５回善正寺門徒展》開催。子供から大人の作品、是非一度ご覧下さい。

☆『絵手紙教室』第４回目１０月１３日（火）午前１０時より庫裏食堂で開催。終了後はお茶会。是非ご参加を！

お稚児さん大募集！

平成２８年５月１５日親鸞聖人７５０回忌法要（８か月後）の御稚児さん大募集！参加費５千円。まだ先のことか、出足がイマイチ。ご協力下さい。

☆　編集子より　☆

「善正寺だより」第二百六十二号をお届けします。◇暑い夏の後、不順な天候続き。台風の進路と遠く離れた関東、東北地方で大規模な豪雨災害が発生。惨状に目を覆いたいような衝撃でした。◇一方、ＥＵ諸国には中東、アフリカ方面から難民が押し寄せている。鉄条網をかいくぐってでも安住の地を求めなければならない苦難の人々が急増している。日本に難民が押し寄せたら、ドイツのように受け入れを決断できるだろうか？自問自答したい。◇「如来さまとは他人事という世界を持たないお方」と味わう。「他人事」という妄念をあらゆる場面で翻されてゆく。報恩講の季節はそんな学びの機会である。如何であろうか？合掌。

秋本番、十月は一ケ月間恒例となった「善正寺門徒展」が百五銀行阿倉川支店で開催されます。門徒さん以外でもご縁のある方ならば誰でも出品できます。今年で五回目、手探りの状態でスタートし、これほど続くとは予想していませんでした。今までお寺とは無縁だった人が関心を寄せて下さいます。作品は十一月二・三日の報恩講にも本堂で展示。伝統行事だけに留まっていたら地域の人々との交流は生まれません。九月のファミリーコンサート、六月から始まった絵手紙教室、夕方五時の鐘つき等、広く門戸を開けば新しいご縁が生まれます。失敗を恐れず先ず行動することがモットー！「昔はよかった、もっと人情が厚かった、人が集まった。しかし今は…」と嘆いても始まりません。少子高齢化で仕方ないとか環境の変化で諦めていたら、後悔します。「いきなりお寺参りをせよと言われてもハードルが高い」という声もあります。かつて日曜学校に通った子供や元教え子が悩みを抱えて相談に来ます。「人生の道に迷ったら先ずお寺へおいで、先生や親から教わらなかったことも仏様に聞いてみましょう」とアドバイス。「人生の先輩や仏様の智恵は安心して歩める」と明るい顔で帰ります。約半年後に迫った親鸞聖人七五〇回忌法要、稚児募集もまだ少数。その前の行事をこなすことで精一杯ですが、皆様のご協力で機運を高めたいと思います。どうかよろしくお願い申し上げます。

合掌

平成二十七年十月

善正寺坊守 拝